

イー・ウーマン調査

「報道のあり方」に関する調査

2007年11月に実施したイー・ウーマン調査「ニュースに関する調査」では、ニュースの見方として、「情報を鵜呑みにせず、ニュースを複数の媒体によって比較をしている」という人が多くみられた。同調査を受け、今回の調査では、情報の受け手が報道のあり方について、どのように考えているのか、ということを少し掘り下げて聞いた。

■ 新聞のメリット …… グラフ1

「あなたにとって、信頼のおけるニュース源は？」という問い合わせに対して、最も多かったのは、新聞で74.0%、次にテレビが43.9%、インターネットが30.3%となった。ここでは、「新聞」の信頼度が群を抜いて大きい事がわかる。では、新聞の良さとは、どういう点にあるのだろうか。「新聞の良さは何ですか？」と自由回答で聞いたところ、大きく2点のメリットが挙げられた。一つは、「ざっと目を通して、興味のある箇所を拾うことができる」「ある程度の量のニュースをまとめて読める」といった「斜め読みのメリット」である。もう一つは、「じっくりと読める」「自分の好きな時間に読める」「ツールなしで共有できる」「必要に応じて、赤線をひいたり、切り抜いたり、自分で加工ができる」などの「活用メリット」である。さらに、「新聞は、文字にして残す内容への責任が問われるだろうから、正確さがあると思っている…」というふうに、情報の正確さを評価している人も見られた。また、「興味のないニュースに接することができる可能性がある」など、テレビやインターネットに比べて、自分で意図していないところで得られる情報のメリットも感じられているようである。

■ キーワードは「信頼」 …… グラフ2 図1 グラフ3

「信頼のおける具体的な番組名、新聞名などがありますか？」と聞いたところ、42.8%があると回答した。42.8%に対して、信頼のおける番組や新聞を想定したとき、それはなぜ信頼できるのかを聞いたところ、いくつかの「信頼」の要素(キーワード)が見えてきた(表1参照)。「キャスターの人間性」や「その人それぞれの観点からの意見」があるといった、「人」に関連することや、複数の角度から取材がされ、その伝達においては、指標が分かりやすく伝わってくるという明確さ、また、感情的になるのではなく、あくまで事実を中立的に報道するといった伝え方などが、信頼のおけるメディアの要素として重要なと思われる。また、「信頼できるジャーナリスト(TV／新聞)はいますか？」と聞いたところ、29.3%がいると回答した。前述の質問で、信頼のおける具体的なメディアの要素にも挙げられているように、「新聞の銘柄というよりも、記者の名前が署名された記事」と、「誰が書いた」「誰の」記事であるのかを明確にすることも大事なポイントかもしれない。

■ 報道の大小を感じる …… グラフ4

「自分は大きなニュースだと思っていたが、あまり大きく扱われておらず不思議に思ったことがあるか」を聞いたところ、半数以上の53.3%が不思議に思ったことがあると回答した。どのようなニュースについて不思議に思ったか、具体的に聞いたところ、例えば、「CNNなどの海外メディアで報じたアフリカでの出来事が日本ではあまり大きく扱われない」、「全国のニュースでは地方の現状や窮状をあまり取り上げてもらえない」といった地域性のあるニュースに関する意見や、「政治の不祥事問題は、スキャンダラスな内容であれば大きく扱われる一方で、分かりにくいか私たちの生活に大きな影響を与えるような問題が取り上げられないこと」を不思議に思う、という意見があった。また、環境問題に関して、CO2削減に繋がる技術が開発されても取り上げ方が小さかったり、出産育児に関連して、妊娠出産には健康保険が効かないという事実が大きく取り上げられる事がない、といった内容が見られた。このようにどちらかといえば、生活に身近な内容が、実はあまり大きく報道をされていないのではないかと想像する。

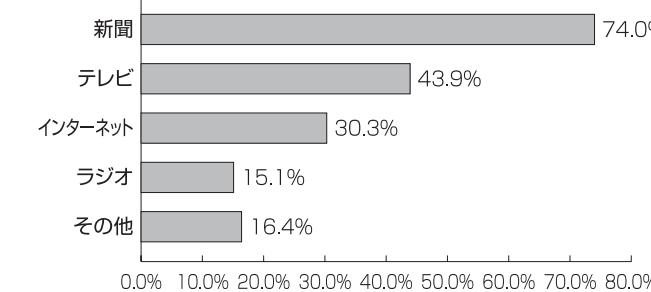
■ 報道内容の選択を多角的に …… グラフ5

逆に、「自分は大したニュースだと思っていたが、とても大きく扱われていて不思議だったことがあるか」を聞いたところ、50.6%があると回答した。具体的には、「芸能ニュース」の取扱いが最も多く、その内容によっては、必要以上に話が大きくなることもしばしば見られる。また、「事件」の報道に関しても、他にニュースがない時に、何度も繰り返し同じ内容が報道される場合がある。繰り返しの報道が必要な場合もあるが、前述のように、取り上げるべきニュースの内容は他にも多く存在するのではないかだろうか。「同じような報道を繰り返すのであれば、新鮮なニュースを届けて欲しい」というコメントにもあるように、タイムリー且つ、様々な人の目で多角的に選ばれた事実報道が求められているのではないかと思う。

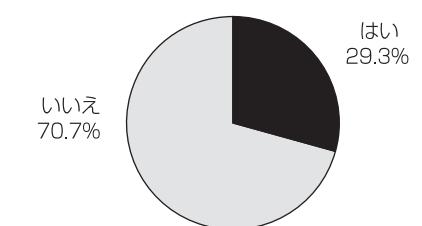
■ 報道に感謝

「このような報道があつて良かったと思ったことはありますか？」と聞いたところ、多数の報道内容が集まった。例えば、「年金問題」「官僚の天下り問題」「食品偽装問題」「犯罪」「戦争のこと」「他国で起きていること」「最先端技術について」などは、報道がなければ詳しく知り得なかったこととして価値を感じられている。特に、その報道のあり方としては、事実に対する解説を誘導するような作り方ではないところが良く、また、多くのメディアがある一面ばかり強調をして報道をしている中、そうでない面の報道がされていた点、などが評価されている。また、このように大きく報じられたニュースとは全く異なる視点であるが、「女性専用車両は、身体に障害のある男性も乗車できる」といったニュースもある。知らないために、注意をする女性がいるという事実が報じられ、私たちは知る事の大切さを改めて実感する。また、「心無い人に街頭の花が切り取られた地域に、他県からたくさんの花が贈られたという報道」からは、「学校など教育現場でも話題にできるニュースではないかと考えながら観た」と、受け手に記憶されている。このように、報道を通して、私たちは無意識では知り得ることのできない多くの情報を触れ、視野を広げることができる。情報の受け手として、次のアクションをどのように行うかということも含めて、学び続けていくことが必要であろう。また、消費者であり、生活者であり、時に親、教育者、あるいは、経営者であるような様々な情報の受け手が、それぞの価値観で報道を捉え、情報の価値を判断するために、報道の内容や順番やその大きさの選択には、多様な受け手に向けた視点が求められているのだろう。

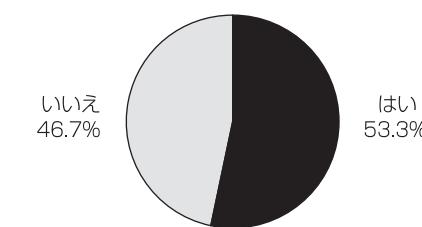
グラフ1 あなたにとって、信頼のおけるニュース源は？
(複数回答)



グラフ3 信頼できるジャーナリスト(TV／新聞)はいますか？



グラフ4 ニュースの大きさに疑問を感じたことがある？
小さすぎ？



グラフ5 ニュースの大きさに疑問を感じたことがある？
大きすぎ？

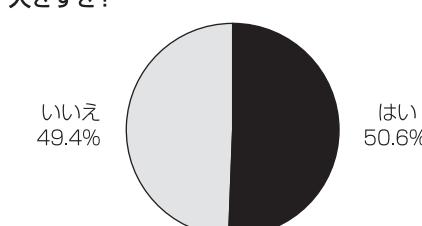
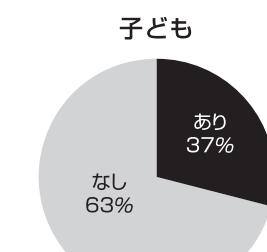
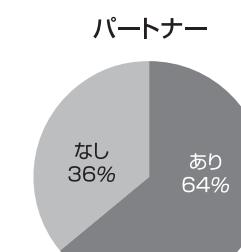
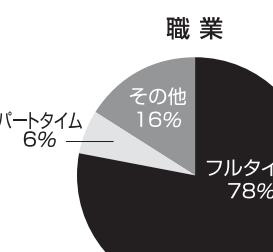
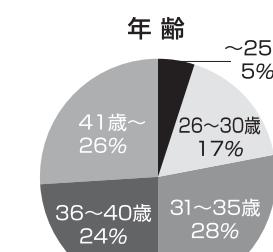


表1 信頼のおけるメディアの要素 抜粋

要素	コメント例
人	キャスターの人間性を感じること
	新聞の銘柄というよりも、記者の名前が署名された記事
	キャスターへの信頼
	"日替わりコメンテーターが、同じニュースに逆の意見を言うことも多いから。多面的にニュースを理解できる。"
明確さ	"取材する時の視点が複数あり、一方的な見方に偏らないようになっていると思える"
	調査がきちんとされているように感じる
	指標が分かりやすい
伝達方法	第三者的な表現力で事実のみを伝えている
	報道スタンスが中道的
	エンターテイメントに走らない
その他	長い間、その情報に接してきた経験から

LEADERS DATA



＜調査概要＞
調査実施:2008年5月8日(木)～5月13日(火)
調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
対象:イー・ウーマンリーダーズ
有効回答数:628名